

タバタヴィッチの穴

監督 田畑洋行



た
し
ぼ
ぼ

教育実習最後の日のことである。帰宅する準備をしていた僕のところ一人の生徒がやってきた。

「先生、住所教えてください。年賀状書きますよ」

思い出してみると、僕らが高校生だった頃は「ポケベル時代後期」とでも言える時期だったように思う。ピッチや携帯電話はまだほとんど普及しておらず、そのポケベルにしても誰でも持っているものじゃなかった。斯く言う僕も、未だに触った頃はおろか、本物を見たことすらない。高校時代、持っていた友人はいたが、「見たいノ触りたいノ」なんて恐れ多くて言えなかった。なんとというかこう、未知の物体だったわけである。

それが、僕が大学に入る頃にはピッチ・携帯はあつという間に普及していった。僕も一年の冬にピッチを購入した。今時、「中高校生に携帯」なんて驚くこともなくて、高校二年の僕の弟もピッチを持っている。

編集・発行
宮城県宮城野高等学校
同窓会事務局
〒983-0021
仙台市宮城野区田子2-36-1
ホームページ
<http://www.miyagino.org>
E-mail
web@miyagino.org
第5号
2002年5月1日発行
題字：田代ひとみ先生

今はそんな「携帯時代」である。しかし、携帯を持っていない人だって当然いるわけで、冒頭の生徒もそんな一人であつた。携帯電話も持たない、メールもしない。さりとして普段会えるわけでもない。さてそんな人にとってのコミュニケーションの手段とは？ 手紙なのかな、と思う。携帯電話を持たない頃の僕にとって、手紙や年賀状はとっても重大なことだった気がする。

今年の正月、その生徒から年賀状が届いた。それには大きな「午」と言う字と、ペンで「今年もよろしくノ」と一行だけ書いてあつた。その素っ気ない一言が、その人なりの不器用なあいさつなのか、はたまた義理で出してくれたものなのか判断しかねるが、少なくとも受け取った僕は嬉しかった。「宮城野に入つてよかったな」なんてことまでは思わなかったけど、「宮城野に実習に行つてよかったな」とはしみじみ思つた。

三代目



日本の教育の潮流は、平等から自由へと移行しつつあるようだ。宮城野の教育も、カリキュラムの多様化、選択制の拡大や制服・校則の廃止などに、個性を生かす自由への志向が顕著である。

現代は捷のゆるやかな時代であり、制限や束縛をできるだけ少なくすること、規制緩和をよしとしている時代である。自由が何より尊ばれる。

しかし、自由なるものをよく見極めておかないと、宮城野の教育も後で、しまったということになりかねない。

そこで、自由について考えてみよう。近代において、自由という概念は、平等という概念とセットで誕生した。自由と平等は正反対の概念なのに、歴史の中ではつねに一緒に姿を現すのはなぜだろう。

それは、自由という概念が、

「自由」について
校長 川村 幸安

それだけで単独では成り立たないからではないか。よく考えれば自由と平等は互いに排斥し合う相反概念である。一緒に誕生したということにすでに秘密がある。

飢えた男A Bがいて、パンが二個ある。Aによる二個の独占はAの自由であり、Bの不自由である。一個ずつ分け合う平等は、A B双方に空腹を強い、どちらにも不自由である。自由は必然的に片方の犠牲を前提とする。一方の人間の自由は、他方の人間の不自由を意味する。

したがって、お互いに自由を主張し合っていれば、必ず優勝劣敗が生ずる。自由とはそれほど頼りない、それ自体では成り立たない概念なのだ。

つまり、平等という支えがなければ自由は成り立たないのである。

のわどり

今年、僕と同級生、つまり宮城野高校の一期生のおそろく過半数にあたる、順調に四年制大学に入学し進級した人がいよいよ社会に出ていく段階が訪れています。つまり、いよいよ宮城野高校の真の成果が問われはじめる時であると思います。まさか進学率が出た時点で宮城野高校の結果が出たと思われている方などいらっしやらないと思います。が、宮城県に、いや全国に鳴り物入りでデビューしたバイロットスクールがどのような結果を見せていくのか、僕自身も非常に楽しみです。

高校は初年度とは徐々に離れて行っているという話をよく耳にすることが、非常に残念に思えてなりません。僕は、あの頃の宮城野高校のスタイルを最も活用した学生であったと自負しています。もしも宮城野高校が学生個人を尊重したあのようなスタイルをとっていなかつたなら、僕の人生はまったく違ったものになっていただしよう。初年度の卒業生がほとんど社会に出て行く今こそ、学校のコンセプトをぜひとも思い出し、再考するのいい時期なのではないでしょうか。全国に腐るほど存在している高等学校と、宮城野高校の決定的な違

い、宮城野高校がバイロットスクールであるそのゆえんを、ここでぜひともみなさんに考えていただきたいものです。僕は現在、NHKで放送されるクレイアアニメ（粘土の人形アニメーション）や、ホームページ、CD-ROM、ミュージッククリップなどを制作したりする仕事を個人でやっています。まだまだ駆け出しで、できあがってくるものも満足とは程遠い状況ですが、高校生のおかげで一貫してこういう方向でやってこられたこと、そして、その方向で作品を作り、お金に還元していくことができることを、僕は非常に誇りに思っています。

高校を卒業したあと、僕は岐阜県というどこにあるかも分からないようなマイナーな県の専門学校に進学しました。高校の時、諸先生方の「大学に行った方がいいんじゃないか」という進言に耳を貸さずに、こんな辺鄙な学校に進学したのは、それが自分にとって最良の道であると判断したからです。もちろん、その決断に至るまでに非常に悩み、熟慮したからでもありません。予想通り、その学校は、その地理的な境遇に反して非常に先進的な考えを持った学校でした。僕はそこで水を得た

僕は、一期生として宮城野高校で生活した三年間を非常に大切に思っています。そしてそれは、そのまま宮城野高校を大切にする想いにつながっています。現在もあれほどいい高校は他にはないと思っています。だからこそ、その後の宮城野高校は初年度とは徐々に離れて行っているという話をよく耳にすることが、非常に残念に思えてなりません。僕は、あの頃の宮城野高校のスタイルを最も活用した学生であったと自負しています。もしも宮城野高校が学生個人を尊重したあのようなスタイルをとっていなかつたなら、僕の人生はまったく違ったものになっていただしよう。初年度の卒業生がほとんど社会に出て行く今こそ、学校のコンセプトをぜひとも思い出し、再考するのいい時期なのではないでしょうか。全国に腐るほど存在している高等学校と、宮城野高校の決定的な違

魚のように生き生きと泳ぐはずでした。ところがそこに待っていたのは、今までの自分がいかに井の中の蛙であったかを思い知ったの極度の自信喪失。二年間あるカリキュラムのうち、半分以上はただただ自分の内面と向き合う日々でした。学校で教わる事柄についていくのもやっとで、何かを創造する余裕などほとんどありませんでした。

しかし、その学校を卒業する直前になって、ようやく僕はふと、何かを発見したように思います。自分にしかできないことの片鱗を、ほんの少しだけ掴めたような気がしました。「自分は無力である」と考えることは、非常に恐ろしいことです。たくさんの人がそういう恐怖にかられ、畏縮しているように感じます。（もちろん僕もその一人です）「自分を信じる」ということは、その言葉を世の中で聞く頻度が非常に多いのが不思議なほど、ものすごく困難であり、実践できる人などほとんどいないようにすら思えます。しかし、無理矢理にでも自分を信じて進んでいかなければ、今よりも高いところに登って行くことはできない。

そのためには、自分の中にある、ほんのちよつとのベクトルを探し出さなければいけないのだと思います。そして、こんなことは口に出すのも恥ずかしいのですが、それに必要なのは「努力すること」と「自分で考える力」なのだと思っております。

あの頃、宮城野高校にはこのふたつの大事なことを学ぶ土壌が非常に豊かに用意されていたように思います。だからこそ、僕は、その学校で三年間を過ごした卒業生たちが今後どうなっていくのかを非常に楽しみにしているし、これからの宮城野高校からも、個性に溢れ才能豊かな人材がどんどん輩出されてくることを期待しています。

お互いがんばりましょう。

佐々木 隼プロフィール

1998年宮城野高校総合学科卒業。その後、マルチメディア時代の科学・芸術機関として海外にも名高いIAMASに入学し、『ホームページ絵本コンテスト』などに出席。現在もNHKの「英語とあそび」内のクレイアニメ『Popin』の製作やweb、CD-ROMの製作など国内外を問わず、幅広い活動をしている。
E-mail:jun98@iamas.ac.jp
HomePage:http://www.junsasaki.com

宮城野高校も開校して7年目。開校当時から変わらないものもあれば、年々少しずつ変わっていくものもある。良くなったトコロもあれば、悪くなったトコロもある。そんな現在の宮城野高校、そして宮城野校生を探ってみます。

現役 宮城野生

今年度の宮城野生はどんな生徒達だったのか、各年次の先生方に聞いてみたところ：
 一年次↓宮城野生になって約一年。宮城野高校の将来について考え始めているようです。伝統的なことを残すか、新しくするかで悩んだりもしているらしい。物事を自分たちで考え、行動するという意志は伝わっているようだ。
 二年次↓明るく、元氣。男子生徒のなかには、行事のあり方などに不満を感じて学校側と衝突することもあったが、女子生徒も含め、宮城野の枠から離れて、外の世界に自分の居場所を見つける人も出てきている。全体的には問題意

「人の個性は十人十色」、考えるまでもなく当然現役宮城野生にも当てはまることであり、個性を尊重するという方針は開校当時から全く変わっていない。生徒指導はこれまでに以上積極的になっているようだ。

個性

識を持って物事に取り組む生徒が多いようだ。
 三年次↓自分の進路に関わる年次ということもあって、皆真面目に勉強に取り組んでいた。
 現役宮城野生を全体的にみてみると、他校にみられるような先輩・後輩間の上下関係はなく、相変わらず年次を問わず仲が良いようだ。しかし、自分たちで創り上げていこうという意識は受け継がれているものの、開校当時に比べると輝きやチャレンジ精神が少なくなってきたいて、先生方のなかには物足りなさを感じている先生方もいるようだ。

開校以来、宮城野高校には生徒会は存在していない。生徒会の代わりのものとしてボランティアという形が採られてきたが、ボランティアはご承知の通り、限界がみえていた。そこで「宮城野高校ならではのユニークで優れた話し合いの仕組みを創ってほしい」という、米田先生の提起により、リサーチャーや三年次の一部ホームで熱心な討議があり、生徒会組織の整備の必要性やあり方が問われてきたが、残念ながら形になるまでには至らなかった。生徒を対象に行われたアンケートによると、「今の宮城野に満足しているか」という質問に対し、半数以上が「不満足」と答え、「生徒会が必要か」という質問に対しては九割近くが「不必要」と答えている。全生徒を対象にしたものではないのでこれを鵜呑みにはできないが、生徒会という形ではない、何か別の組織は必要だと考えている生徒は多いようだ。

生徒会的 組織

平成十四年度からオープンホームルームは廃止され、一年次から学科毎のホームになることになった。「オープンホームルームでは進学率に支障が出る」という進路部の先生方の意見からこうなったそうだ。「世界に通用する人材の育成」が宮城野高校の創立に掲げられているが、その土台として進学により重点が置かれるようになった、ともいえる。先生側の要求だけではなく、生徒の進学を望む声が反映された結果として受け止めたのだが、こうすることで進学率が上がるかどうかにはすぐに結論を出すべきものではないが疑問は残る。少なくとも他の学科の人の交流が減ることは間違いない。開校当時テレビで放映されるほどだった「休み時間の廊下の混雑」は、もう過去のものになろうとしている。

ついに

宮城野高校は歴史が浅いということもあって毎年が試行錯誤の連続だが、こうした動きのなかから築き上げられてきたものは数多い。生徒が動くことで宮城野は輝きを増してきたが、その歩みを止めてしまうと輝きが無くなるという恐ろしさを秘めた高校である。つまり、常に動き続けなければならぬのであるが、現役宮城野生は「取捨選択の難しさ、産みの苦しみに直面しているように感じた。卒業生が残っていたものが決して重圧になることなく、新たな輝きを見出していくことが現役生に与えられた課題である。今回探ってみて、将来大きな輝きになる可能性のある動きが現役生のなかにあることが確認できたのは喜ばしいことだった。

だが、こうした動きがある一方、学校体制としての「宮城野の魅力・宮城野らしさ」は急速に薄まりつつある。これは現役生に対してというよりは、先生方に与えられた課題として受け止めていただければ幸いである。

「正規の授業は今日で終わり。もう少し感慨深いものがあると思っていたら、何事もなく淡々と終わってしまった。宮城野を去るという実感は湧いて来ない。まだ講習が残っているせいだろうか。」というメモを最後に、あとは電話の名前が日付とともに並んで

いる。結局、二年間続いていたメモは再開されることなく、カビ臭い机の中にそのまま放置されることになった。どうやら、私の不本意な旅はそのあたりから始まったものらしい。

のだろうと思う。物悲しく、時にずしりと重くのしかかって来る心細さ。ラジオの音声がだんだん小さくなり、やがて雑音の中に掻き消されてしまふ時の不可解な異和感が、それを象徴しているようにも思える。それは借家に辿り着いてからもしばしば頭をもたげ、いつまでも居座り続ける

ことがある。私は胸までせり上がった暗い海の中で、それと引き替えに人に優しくなれた、とあえぎながら思う。自然を美しいと思うことが多くなったとしみじみ思う。家族がばらばらに暮らしている痛みは時が癒してくれただけ、昨夏、白神山地を歩いた時、不思議な経験をした。病魔と

闘っていた更に一年前のことを噛み締めるようにブナの原生林を辿り、温泉につかり、ビールを飲み、満天の星空を仰いだのだが、十年來の疲弊感が跡形もなく消え、新しい力が全身に漲って行った。私は今、その時とは全く異なる旅の途上にある。



宮城野物語

本間 昭良 (保体科)
(H7~H14.3)

心の宿の宮城野よ
離れて熱き吾身には
日影を薄く草枯れて
荒れたる野こそうれしけれ
島崎藤村の詠んだ校碑が四季折々、鮮やかに色彩を添える前庭にある。雄大に聳える校木のハナミズキと共に、この宮城野の大地に威風堂々と創生された白亜の学舎のシンボルである。

生と共に卒業するにあたり、宮城野を回顧すると、正に幾多の人に夢を実現させ、多くの感動と感銘を与えてくれた素晴らしい学校であった。平成七年春、難関を突破しこの大舎にともがら集ひ、まだ童顔の面影を残し、純心で希望に満ち、高い理想を求めて真新しいスーツに身を装み毅然と入場した第一回入学式が記念すべき宮城野がスタート

とした瞬間であった。開校式で披露した「野を讃ふ」の混声四部合唱は宮城野健児の意気込みを存分に発揮して式典のクライマックスを盛りあげ、参列者の心を揺さぶり、個の輝きが集合体となり宮城野という偉大な結晶となつて宮城野の礎を築き伝統づくりの基盤を創った。

をもち真摯で躍動感溢れる生活行動であった。高校生活にメリハリをつけるべき何事にも積極果敢に挑戦し無から形成した諸行事のあり方、運営にも力強さを感じた。今春、第一回同窓生諸君も社会への出発、宮城野で培った貴重な財産を最大限に発揮し世のために貢献して下さい。母校の益々の御発展、同窓生諸氏の榮なる御健勝、御健

闘を心より祈念いたします。終わりにあたり、今日まで数々の感動を与えて戴いた同窓生、在校生に感謝いたします。私自身も第二の青春を求めていつまでも心身ともに若さを保ち、ロマンを追求して旅立ちます。ありがとうございました。

『新しい旅』

古谷 隆男 (国語科)
(H7~H12.3)



リニューアル?!

宮城野高校のホームページがグレイドアップする。そんな話を耳にしたのは「たんぼぼ」の編集会議兼里帰りをした三月半ばのことでした。

なぜ今になって?と思う人も沢山いるでしょう。グレイドアップの話の裏に製作者の交代があったのです。と言ってもまだ正式ではありませんが。ホームページ製作をかって出てくれたのは、一回生の佐々木隼さん。今回の「たんぼぼ」に熱い記事を寄せてくれていきますので、それもしっかり読みましょう。今回、彼が作るものは試験的な運営になります。総会の際に承認を得られれば正式なホームページとなるわけです。

ここでちょっと注意です。現在の製作者である田畑会長から佐々木さんへバトンタッチする時にアドレスが変更します。みなさん気をつけて下さいね。新しくなったホームページにも、どしどしアクセスしてみよう!

来てね♡

小さな帰郷

ホームページをちよつとのぞいてみた。掲示板にちらほら知っている人の名前があった。みんな卒業してから会ってないなあ。でも何か元気そう。



遊びに

野に対して同窓生としてどうにかしていきたいというパワーや支部を作りたいというパワーを小さなままでおさめないで欲しい。宮城野で築いた友人や先輩、後輩、先生とのつながりが距離や時間の流れに負けないで欲しい。だから気軽に遊びに来てね♡宮城野高校ホームページ。すべてはそこから始まるかもね♡

支部つく?



はいさい!南国沖縄でのんびり暮らしている三回生のK・Wです。早いもので、宮城野を卒業して沖縄に来てから丸二年が経ちました。沖縄は日本で一番ゆつくりしているとされることとがあります。例えば飲み会などでは、定時に来るのは二、三人、三十分遅れて来るのはやつと半分、一時間経って盛り上がり上がったところまで全員で乾杯。こんな感覚を沖縄の人は愛称でウチナータイムと呼んでいます。僕にとってもこんなのんびりした感覚はとても心地良いものです。

が、しかし振り返ってみると、時が経つのは早いものです。沖縄に溶けこんでいくと、そのうち浦島太郎になっているかもしれません。

昨年「ちゅらさん」で沖縄がずいぶん注目された年でした。おかげで沖縄と言ったら泡盛、ゴーヤ、オバアというイメージが皆さんの中にできたのではないのでしょうか。「にいにい、どこから来たね。はあ、寒い所から来たんだね。沖縄は暖かくて良い所でしょ。沖縄の人はねえ、みんな良い人だよ。お茶グア飲んでいきなさい。スチゲスイやつさあ」なんてお土産屋さんののぞいていると、オバアといつの間にか和んでしまえます。そうするうちに、沖縄の女の人は日本が一番美人だとか、泡盛が最高だとか色々一番とか最高とかが出てきます。こんな話を聞いていると、沖縄って本当に良い所だなと思ってしまう。こんな沖縄に魅せられた同じく三回生のY・H君がいます。だいたい前に支部を作って沖縄の魅力が伝えたいと意気投合しましたが、まだ輪郭もできていません。僕らも沖縄にハマったばかりなので、支部の話はもっとハマってからになりそうです。

卒業生2回生

からだ、踊る、

こころ

千田 優太

黒いビニール袋の中、縮こまったからだ、薄い酸素、しみ出る汗、心地良い音楽。

ゆっくりと自分のからだをそれを感じる。ここから出たいと足を伸ばすと、行かないでとビニールは引きとめようとする。しかし、関節は悲鳴をあげ、むりやり伸ばす。すると今度は力負けしたビニールが皮膚と一体化し、引き裂かれる。今度はたくさん涙を流すが、一度動き出したからだはもう止められない。ビニールと一つになる快感を覚えたからだは、次々といろいろな部位でそれを味わい、ビニールは耐えられず無残な姿になっていく。皮膚は快感と悲しみのなかで、ただただ涙を流すことしかできなかった。そして、それは何度も繰り返される。ダンス&パフォーマンススクール

「ばくばく」。大学に入り二年が経とうとしている。大学に入ってから出会ったこんな踊り。今まで見たこともないような踊りを楽しんでいる。年に一度、141エルパーク仙台で公演があるので、足を運んでもらいたい。新しい自分と出会えるはず。

卒業生3回生

「道草について

ちよつと」

伊澤 拓成

二月の下旬、僕が連日の試験とレポート作成に追われていたときの話。大学のパソコン実習室で、僕は生氣なくキーボードをひたすらたたいていて、その時の僕はひどく疲れていて、顔は瘦けて無精髭が生え、側に寄りかたい人に違いなかったと思う。けれどもそんな中で僕に話しかけてき

た物好きな人がいた。彼女は僕のひどい顔を覗きながら「最近、道草してないでしょ？」とにこにこしながら尋ねてきた。「んっ、道草？」

僕は彼女が好きだ。彼女はよく不思議なことを言っていて、僕にナゾナゾを出してくる。

そして僕は一生懸命に考えるために行動を起こすことになるのだ。もしかすると、そのナゾナゾの答えなんてものは、存在しないのかもしれない。でも僕はこういつたナゾナゾ遊びが好きだし、それと考えているうちに、何かを発見するようになったりする。それは今までにないものであったり、再び僕の中に戻って来たものであったりするのだけれども。

どういうわけか答えを教えようとする人が多すぎる。答えというものは皆がそれぞれ持っているものだと思う。あなたの答えは自分の答えではないし、僕が見つけたいのには僕の答えでそれは自分の中にある。だからその答えを探すためのきっかけがたくさん欲しい。そんなわけできっかけを多く与えてくれるそういう人が僕は好きだ。

そして今日も出題された。僕は道草が好きだ。小さい頃から学校の帰り道でよくしていた。時にはひとり、時には

友達と。知らない道を探検したり、なんか遊んでみたり、公園でエロ本見つけてみたり、近所の犬や猫を見に行ったり。今思うとそれらは、冒険であり、良くも悪くも学校や家庭で学ぶ以外の教材の宝庫であった。

そういえば最近道草というものをしていないと思う。でも人生における道草というものはたたくさんしている気がする。でもそれは何も無駄をしてきたという後悔の様な意味ではなくて、どちらかといえばして良かったし、今の僕をつくらせた要素でもあって、大切にしたいものだ。

ここで僕が考えた道草を熱弁するのは野暮なからするつもりはないけれど、道草というものは大切なことだと思ふことだけはいいたい。

魅力的な人はきつと素敵な道草もしていると思う。少なくとも僕の周りのそういう人たちはそうだ。ただ肝心なのはその時の目的地を決して忘れないこと。そうしないとそれは道草ではなくてしまふ。僕も上手に道草しながら人生という道を歩めるだろうか。

パソコン機器に囲まれた部屋で、昔よくやった緑の小山を思い出しながら、明日は自転車で来て、のんびり道草して帰ろうと思った。



卒業生1回生

一人前を目指して

小野寺 穰

今僕は木工の仕事を習っている。四月になれば、九四年間習い続けたことになる。修業期間を決められていないので、この先どうするかは自分次第。五年、十年と通い続けることもあり得るが、いずれにしても独立しなくてはならない。これからのようにして生活していかうか・・・。

「教えてください！」と師匠にしがみついた四年前は、それを考えなかった。公募展に出展しようと思っているけど、自分で考えて創ったものが一つもなくて、出来ないでいる。だから、これからの僕の目標は「自分の」作品を創ることだ。四年間学んだ成果を形にしないといけない。作品を製作する事で、自分に身についた能力を自分自身で確認できるだろう。い

ずれ何処かで小野寺の造ったものを見止められたら、御批評載きたい。

ただいま、僕には主義とか主張が全くない。そんなだから、他人に「これっていいと思わない？」なんて言えない。僕は五人兄弟の末っ子だからなのか、気が付くと身の周りのものは揃っているという環境で育ったから、「あれが欲しい」とか「こういう事をしてほしい」と自分で考えたりするのができないみたいだ。意思が強くないという事で、これは弱味なのだけど、だからこの弱味を補うために他人の話はよく聴くことにしている。すると、他人と自分との違いに気付く場合がある。

四年間、他人の仕事を見続け、自分も同じ事をさせてもらってきた。ようやく作業を覚えてきた今になってみて「あれえ。なんで同じ事をしてるのに、師匠のものと感じが違くなったのかな？」と思った。三年前などは作業が

分らないから、造るもの重要な踏まえていなかった。

だから、出来上がった製品を師匠のものと比べて見る事が出来なかった。そのため自分の個性が見えなかったのだ。今、ようやく自分の個性を意識し始めたばかりで、僕の個性のどこがいいところなのかよく分からないでいる。

たくさんの人達とたくさん話をし、自分の意見を見出し、何故自分はそう考えるのかと思いを巡らす。そうすることで自分の特徴がわかってくるはずだ。自分の特徴を意識してものを造れば、必ず、誰が見ても明らかに個性的なものになるはずだ。

他人に認めてもらえる自分の個性を形にし、プロの木工家の仲間入りを果たしたい。

卒業生2回生

遠藤 大

この文を読んでいる人の中にはこれからの自分の進路を決めなければならない状況に立たされている人が多くいると思う。妥協してしまう人、様々な事情で決断しかねている人。自分は今、大学に通いながら音楽活動をしている。ただし遊びではない。EV

IL KICKというバンドを組んでいるのだが、いくつかのレコード会社から話があったり、去年の十一月には東京の恵比須ガーデンホールでHOTLINEというイベントの全国大会で千人近い人の前で演奏することがあった。しかし、このバンドを全国区にするのは容易ではなかった。毎日、個人練も含め十時間に及ぶ練習を行ってきたが、それを支えていたのは、「これだけは絶対誰にも負けられない」という気持ちだけだった。そのために色々なものを犠牲にしたし、そのための時間と金も惜しまなかった。それは自分が昔から思い描いてきた何を失っても手に入れたい夢がすぐそばまで近づいていたからだ。みなさんにはどううしても手に入れたいものがあるだろうか。自分にはある。自分が思い描いている表現方法と他人が感じる感性を共感させるのは容易ではない。誰もが一度は自分が何に向いているのかというタレント性を探す。その時自分は自分自身に言った。「もう言い訳なんかするなよ。」って。

行専

行事は行っていても、先輩達に習ったままの行事を、「去年やったから今年もやる」といった感じの『行事の定番化』となってしまうがちである。新しいものを創ろうとする思いや行動がなくなってきた、先輩達が創ったレールの上を歩くだけ。しかし、そのレールも先輩とはいえ、生徒の手で創り上げた素晴らしいものであることには変わらないから、そういった意味では何もなかった宮城野高校にも「伝統」が出来てきているのかもしれないですね。



カリキュラム

十四年度からカリキュラムの中に1時間(空き時間)が加わることになった。1日の内に四時間の1時間(空き時間)がある人も出てくるらしい。そうなるのカリキュラム的には、ますます大学のような感じになっていくんだな。

図書

図書室の入口に、四回生から卒業記念に贈られた観葉植物がある。あの光がたっぷり入ってくる廊下で生き生きと緑の葉っぱをのびしている。それらは久美子先生が一生懸命に水やりなど、世話をしてくれているそうです。有難うございます。もし久美子先生が宮城野を去ってしまったら、この植物達はいつたいたいどうなってしまうのだろうか…。



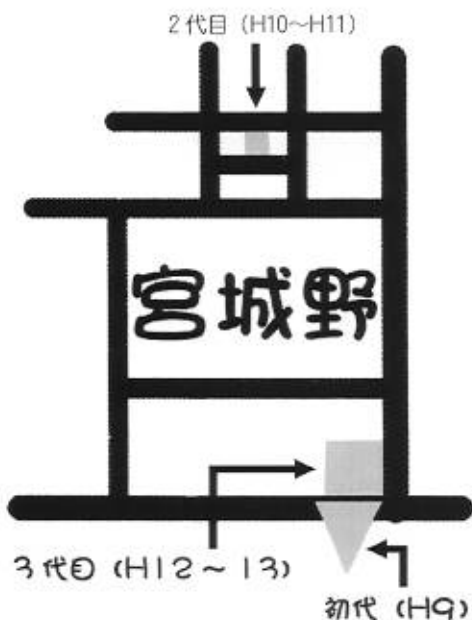
卒業展

美術科と総合学科の美術選考者の卒業制作展に共催として宮城県教育委員会が催した為、今までは抽選で借りていた宮城県美術館の県民ギャラリーの全面を、平成十四年度から宮城野高校が優先的に使えるようになった。

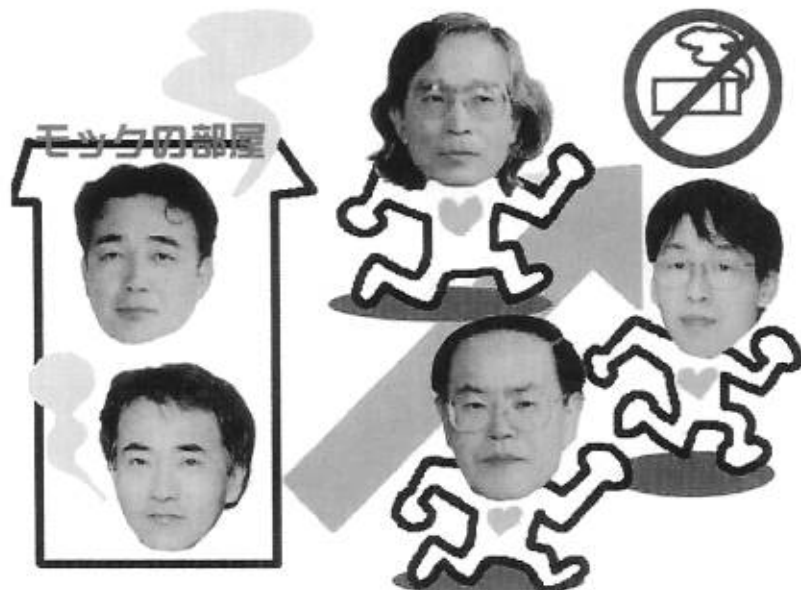
宮城野農園

「仙人」こと、岩泉先生が始められた宮城野農園。岩泉先生が宮城野を去った後、「仙人の弟子」である米田先生と「仙人の弟子の弟子」

の塗田先生が畑を受け継ぎ、耕してきました。そんな畑も今年の春で幕を下ろすそうです。思い返せば場所もいろいろ変わりました。今や初代は道路となり、二代目にはマンションが建ち、最後の三代目には近々お寿司屋さんが見つかるそうです。収穫の時期には美味しい産直野菜が食べられるのに、畑がなくなってしまうと寂しくなりますね。



★禁煙にチャレンジ★



先生方の喫煙室である「モックの部屋」の住民である何人かの先生方が禁煙にチャレンジいたしました。ノまずは成功者は、米田先生、古谷先生、若山先生、そして古いコロでは内藤先生。古谷先生はドクターストップがかかった為ならしいけど、身体は大事です。健康第一ノそして禁煙宣言をしたものの、残念ながら失敗してしまったのは、八巻先生と石川先生のお二人。八巻先生は一ヶ月で再びモックの部屋に戻ってしまわれたとか。石川先生はモックの部屋を出たのは転任の時点で、転任先でも吸ってしまっているらしい…。



盗難

現金やブランド物のポーチ、財布などの盗難が非常に多発し、昨年は被害総額が六十万円以上に昇ってしまい、警察を入れるまでになつてしまったらしい。盗まれる場所は、端のホーム（1ホームや7ホーム）又は体育館の更衣室と限定されておられ、現在は先生方が空き時間に見回りをしているとか。

校舎

もどが田んぼだったせいもあって地盤沈下が徐々に進行し、地盤が歪み、彫刻室の床が変形して工事が行われた。裏門近くでも地面が一部陥没している。宮城野はこのままどんどん土の中へ沈んでいってしまいか…？



以前は強制的になりがちだったサークル活動などの放課後活動は生徒達の力で緩やかになり、ボランティア活動とともに活発になってきている。最近ではテレビ番組の影響もあってアカペラのサークルや合唱サークルなどの音楽系サークルが特に元気そうだ。ダンスのFAIは一度消滅しかけたけれども、今はなんとか体制を取り戻したという感じ。しかし以前の三、四回生までのような勢いはなく、学校（生徒）の中のダンスサークルの位置はそう高くないらしい。

サークル

宮城野を旅立たれた先生方

在職年	氏名	現在の勤務先など
H7～10.3	八 卷 一 雄	宮城県高等学校PTA連合
H7～9.3	八 矢 吹 隆 志	松島高等学校
H7～10.3	八 熱 海 武 彦	富谷高等学校
H7～9.3	八 渥 美 珠	生涯学習課：社会教育班
H7～10.3	遠 藤 吉 夫	仙台第二高等学校
H7～10.3	古 内 世 紀	迫桜高等学校
H7～11.3	多 賀 努	仙台女子商業高等学校
H7～10.3	峯 村 茂 樹	仙台第二高等学校
H7～10.3	仁 木 和 寿	多賀城高等学校
H7～11.3	鈴 木 文 雄	水産高等学校
H7～10.3	山 下 武 志	宮城広瀬高等学校
H7～10.3	藤 原 昇 子	退職
H7～10.3	幕 田 和 淳	古川女子高等学校
H7～11.3	井 藤 澤 美 香	名取高等学校
H7～10.3	井 細 川 美 憲 一	第三女子高等学校
H7～11.3	川 村 恵 理 子	泉館山高等学校
H7～9.3	桂 島 啓 介	教職員課：管理班
H7～11.3	久 光 久 美 子	柴田高等学校
H7～9.3	畠 山 浩 美	生涯学習課
H7～11.3	菅 原 利 美	第一女子高等学校
H7～10.3	加 藤 信 昌	小牛田高等養護学校
H7～12.3	古 谷 隆 男	気仙沼向洋高等学校
H7～12.3	山 口 晴 永	仙台第二高等学校
H7～13.3	佐々木 良 昭	塩釜女子高等学校
H7～14.3	本 間 昭 良	退職
H7～12.3	八 卷 芳 夫	鶴ヶ谷養護学校
H7～10.10	成 田 年 広	H10.10逝去
H7～12.3	半 田 義 博	仙台第一高等学校
H7～10.3	伊 藤 直 子	県立図書館
H7～14.3	高 橋 晃 子	仙台高等学校
H8～11.3	那 須 晃	第一女子高等学校
H8～11.3	渋 谷 貴 彦	仙台向山高等学校
H8～12.3	長谷川 繁 久	古川女子高等学校
H8～12.3	野 中 幸 次	静岡県立沼津東高等学校（旧姓三浦）
H8～11.3	岩 泉 礼 次	退職
H8～10.3	越 後 徳 勝	大河原商業高等学校
H8～12.3	田 邊 元 茂	仙台第一高等学校
H8～12.3	伊 藤 尚 宏	多賀城高等学校
H8～12.3	石 川 武 彦	光明養護学校
H8～12.3	脇 坂 晴 久	教育研修センター
H8～14.3	米 田 和 由	名取北高等学校
H8～10.3	真 山 建 二 郎	退職
H8～14.3	佐々木 久 美 子	富谷高等学校
H8～14.3	村 田 美 穂	気仙沼高等学校
H8～10.3	馬 場 玲 子	

在 職 年	氏 名	現在の勤務先など
H 9 ~ 12. 3	池 田 伯	塩釜女子高等学校
H 9 ~ 14. 3	小 齋 宗 範	仙台第一高等学校
H 9 ~ 12. 3	小 沼 田 秀 樹	多賀城高等学校
H 9 ~ 12. 3	大 庭 幹 子	佐沼高等学校
H 9 ~ 11. 3	佐々木 健 裕	
H 9 ~ 12. 11	菅 原 美 香	特約退職
H 9 ~ 12. 3	高 橋 淳 郎	育英学園高等学校
H 9 ~ 12. 3	川 名 秀 樹	県工業高等学校
H 9 ~ 12. 3	鎌 田 幹 夫	第一女子高等学校
H 9 ~ 12. 3	佐 竹 昭 浩	利府高等学校
H 9 ~ 12. 3	加 川 絵 里 子	西多賀養護学校
H 9 ~ 12. 3	佐 藤 凌 子	特殊教育センター：総務班
H 9 ~ 12. 3	村 上 丈 晴	気仙沼市月立小学校
H 9 ~ 11. 3	大 槻 勇	
H 9 ~ 10. 3	菅 原 良 雄	
H 9 ~ 10. 3	熊 谷 輝 人	岩出山高等学校
H 9 ~ 11. 3	イ・ムギョン	
H 9 ~ 11. 3	アンドレ・ラシャベル	
H 9 ~ 10. 3	吉 岡 信 也	
H 9 ~ 10. 3	鈴 鹿 修	
H 9 ~ 10. 3	片 倉 健 夫	
H 10 ~ 12. 3	石 田 昌 彦	育英学園高等学校
H 10 ~ 13. 3	岩 崎 栄 一	泉松陵高等学校
H 10 ~ 12. 3	佐 藤 順 次 郎	退職
H 10 ~ 14. 3	塗 田 宣 幸	石巻市立女子高等学校
H 10 ~ 14. 3	柏 谷 直 希	石巻高等学校
H 10 ~ 12. 3	浅 野 有 希	江戸川区立上一色小学校
H 10 ~ 12. 3	井 村 由 紀	大河原商業・黒川高校
H 10 ~ 12. 3	半 田 佳 之	伊具高等学校
H 11 ~ 14. 3	後 藤 彰 信	東北歴史資料博物館？
H 11 ~ 14. 3	及 川 美 佳	宮城県農業高等学校
H 11 ~ 12. 3	守 純 子	大河原教育事務所
H 11 ~ 14. 3	伊 澤 智 行	宮城県農業高等学校
H 11 ~ 12. 3	吉 野 貴 子	金成養護学校
H 11 ~ 12. 3	鎌 田 砂 美 子	
H 11 ~ 12. 3	大 内 一 史	
H 11. 11 ~ 12. 3	森 川 悟	岡山県立笠岡商業高等学校
H 12 ~ 14. 3	武 林 恵 子	角田女子高等学校
H 12 ~ 14. 3	竹 内 謙 次	泉館山高等学校
H 12 ~ 13. 3	伊 藤 沙 織	
H 12 ~ 13. 3	高 久 達 央	塩釜第一中学校
H 12 ~	高 渡 邊 珠 希	東京へ
H 13 ~ 14. 3	田 代 玲 子	塩釜第三中学校
H 13 ~ 13. 9	庄 子 智 美	明成高等学校
H 9 ~ 13. 9	大槻 フローランス	
H 13 ~ 14. 3	赤 間 裕 樹	黒川高等学校

宮城野の自由を支えるもの

菅原康之

宮城野高校は今年で七歳になるが、我々一回生にとって、宮城野の歩みはまさに自分自身の成長の歩みであった。高校立ち上げ当初から「自由」「ヤングアダルト」を謳い文句にしてきた宮城野。最近になりその自由が失われてきている気がしてならない。

英語には日本語の「自由」にあたる言葉が三つ存在する事は御存知の人も多いだろう。『Freedom Liberty Freeの三つである。元々日本には自由というものがなかったのでしっくりくる言葉がないが、日本語では一つしかないことから、大きな問題が生じている。

自由についての大きな悩みは「わがまま」との違いであると思う。自由とわがままは違う。自分達も入学時から言われ続けて来た。では、どのように違うのかというと、なかなか納得できる答えはもらえなかった。それもそのはず、自由というの理解するものではなく、感じるものだったからである。それは自由というもの（イメージ）を

求める過程でしか、感じる事が出来ないものである。私が宮城野での三年間で感じた自由というものは「集団の中で許容される範囲のわがまま」である。基本的に自由とわがまは似ている。

しかし、「集団の中で」というのが重要なのである。集団との協調が取れない独り善がりをおがままというのだ。そして、自由とは自分で責任を取るといふ事であると思う。責任とは、守られなければ、社会から罰則を課せられる。今までの学校は学校から停学などの罰則を受けるだけであった。しかし、本物の自由を手に入れるためには、自分自身が社会人にならなければいけないという事なのである。

私達はゼロ、あるいはマイナスから宮城野を作り上げてきた。その過程で、「本当の自由とは何か」とか「大人とは何か」という事を必死になって探してきた。この過程が成長の肥しになったのだと思っている。そしてこの経験は今の宮城野生にも、是非経験してもらいたい。それにこの体験は宮城野でなければ経験できない。なぜなら、宮城野は永遠に「創り続けて」いくパイロットスクールだからである。それから、先生方にも考えてもらいたい。人は勝手に大人になっていくのではない。大人として、一人格として扱われることで大人になって行くのだ。大変な苦労だろうと思いますが、生徒を信じ抜いて粘り強く成長を見守っていただきたい。

平成12年度 宮城県宮城野高等学校同窓会 決算書

(単位：円)

収支対照	収入額	支出額	残 額	摘 要
	7,056,375	881,403	6,174,972	

■収入内訳

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	1,512,000	1,526,400	14,400	1,800円×848名
入 会 金	280,000	284,000	4,000	1,000円×284名
繰 越 金	5,233,762	5,233,762	0	
雑 収 入	10,000	12,213	2,213	利子収入等
合 計	7,035,762	7,056,375	20,613	

■支出内訳

項 目	収入額	支出額	残 額	摘 要
1 総 務 費	300,000	127,050	172,950	
(1) 会 議 費	50,000	27,648	22,352	役員会
(2) 旅 費	100,000	69,144	30,856	役員旅費
(3) 需 用 費	50,000	9,223	40,777	会務用消耗品等
(4) 通 信 費	30,000	16,400	13,600	
(5) 慶 弔 費	50,000	0	50,000	
(6) 雑 費	20,000	4,635	15,365	
2 事 業 費	1,000,000	754,353	245,647	
(1) 総 会 費	400,000	290,000	110,000	総会費用、案内状送料
(2) 会 報 発 行 費	50,000	7,300	42,700	
(3) 名 簿 編 集 費	250,000	213,000	37,000	名簿作成用通信費
(4) 支 部 助 成 費				
(5) 卒 業 式 補 助 費	300,000	244,053	55,947	卒業証書ケース
(6) 積 立 費				
3 予 備 費	5,735,762	0	5,735,762	
合 計	7,035,762	881,403	6,154,359	

監査の結果、新簿並びに諸書類ともに、正確かつ適切に処理されていることを認めます。

平成13年8月4日

宮城県宮城野高等学校同窓会

監 査 員 佐々木千穂

監 査 員 松本明子



■平成13年度 同窓会事業報告

期 日	事 業
H13. 5 / 3 (木)	たんぼぼ4号発送
H13. 8 / 4 (日)	平成13年度第1回常任幹事会
H13. 9 / 2 (日)	平成13年度第1回幹事会
H13.11 / 4 (日)	第2回総会 第1回実行委員会
H13.12 / 22 (土)	第2回総会 第2回実行委員会
H14. 2 / 23 (日)	平成13年度 第2回常任委員会
H14. 3 / 2 (日)	第2回総会 第3回実行委員会

急募!!

第2回同窓会総会実行委員を募集しています。是非、委員として総会運営に携わりたいという方は e-mail:web@miyagino.orgまで連絡をお願いします。

●第2回同窓会総会 告知

(日時)

平成14年9月14日(土) 11時～
※10時30分受付開始

(場所)

宮城野高校体育館

12時から14時までパーティーがあります。総会后に各回生ごとの同期会の予定もあります。案内状は7月上旬発送予定です。

●創立10周年記念式典

(日時)

平成17年10月28日(金)

祝賀会は未定です。

記念事業として同窓会名簿刊行予定です。何らかの変更が生じた場合は同窓会事務局まで連絡をお願いします。

INFORMATION

編集後記

今回で同窓生の手をつくられた「たんぼぼ」の発行は二回目となった。編集委員も同じメンバーであったため、作業の流れも一回目よりスムーズに行えた。しかし、これまでの同窓会誌をつくる目的というものは全く議論して来なかった。近隣諸校

の同窓会誌のように、大部分の人々に読まれもしないものをつくって行くのか。委員の自己満足や情性によってつくって行くのか。もちろんそんなものなら必要もないだろう。今後近い内に、同窓会全体として、存在意義や活動目的について大きな議論をする必要があるであろう。委員だけでなく、私達同窓生全員で「宮城野らしさ」溢れる同窓会を創って行くのではないかと。